

栄 さかえ小 ニュースレター

空き缶リサイクル活動

令和5年度より、6年生のつくばスタイル科の時間において「持続可能な社会の実現に向けて、児童一人一人が貢献しやすい資源の回収を通して、環境改善の実践を進めていく」という目標のもと、空き缶の回収・リサイクル活動を行っています。令和6年度は、空き缶回収の呼びかけを全校児童にまで拡大し、学校全体で環境問題への意識を高める取り組みを進めました。

6年生の子供たちは、回収した空き缶を洗浄し、種類ごとに選別し、効率よくリサイクルできるようにつぶす作業まで行いました。活動を通じて、環境問題への理解を深めるとともに、協力して作業を進める大切さを学びました。全校児童から集められた空き缶の量も昨年度より大幅に増え、活動の成果が着実に広がっていることが感じられます。

こうした6年生の努力が認められ、今年度も空き缶リサイクル協会から補助金をいただくことができ、2月10日（月）に学校で目録の贈呈式が行われました。贈呈式では、協会の方から空き缶リサイクル活動の取組に対する感謝の言葉をいただき、子供たちは誇らしげな表情を浮かべていました。代表児童が目録を受け取る際には、これまでの努力が実を結んだことを実感することができました。

今後も6年生の取り組みを引き継ぎ、持続可能な社会の実現に向けた活動を全校で続けていきたいと考えています。空き缶のリサイクル活動を通じて、一人一人ができる環境保全の方法を学び、より良い未来を築いていけるよう、今後も環境教育に力を入れていきます。



授業の1コマ



4年生の理科では、沸騰した水から出てくる泡の正体を調べていました。ふくらんだ袋の内側にたくさんの水滴が付着していることに気づき泡の正体が水蒸気であることを突き止めたようでした。



1年生は、生活科「ふゆをたのしもう」の単元で、草花などを入れた水を外で凍らせ楽しんでいました。最近では厚い氷が張る様子を見かけなくなったので、子供たちは氷のかたまりに大喜びでした。



3年生は、凹凸のある身近な素材を組み合わせて動物を作り、それをスタンプとして作品づくりに挑戦しました。色を工夫しながら配置し、個性あふれる動物の世界が仕上がりました。